

## 平成24年度 教育・学生支援センター自己評価報告書

	取組内容
<b>I 教育活動</b>	<p>1. 教育の質の向上や高い質の維持に関する取組の状況</p> <p>教育企画はセンターのミッションそのものであり、全学の教育改善に関する事業を推進している。講義担当者としても、センター専任教員として専門性を生かし、共通教育部、教育文化学部における授業科目を担当し部局の教育プログラムに貢献している。</p> <p>(1) 学士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通教育における共通科目「英語」、教養発展科目（文化・社会系、キャリア教育・生涯学習系分野）の授業科目を担当し共通教育の充実を図った。</li> <li>・ 本学の英語学習プログラム「国際的に活躍できる専門職業人育成を目指した学士課程一貫の英語学習プログラム」における1年次共通教育英語科目において、eラーニングを活用し、英語基礎運用能力（語彙力・文法力）の育成を図った。</li> <li>・ 上記プログラム2年次共通教育科目「英語3」において、英語運用能力の向上を図るためにTOEIC対策コースを開設し、約400名が受講した。</li> <li>・ 上記プログラム2年次共通教育「英語4」において、eラーニングによるライティングコースを開設した。</li> <li>・ 上記プログラムにおいて、単位の実質化を実現する授業運営を行い、厳格な成績評価を実施した。</li> <li>・ 教育文化学部における教科専門科目を担当し教員養成プログラムに貢献した。</li> <li>・ 共通教育における教養発展科目（キャリア教育・生涯学習系分野）の授業科目を担当し共通教育の充実を図った。</li> </ul> <p>(2) 大学院課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職大学院の必修科目・選択科目を担当し、教員養成プログラムに貢献した。</li> <li>・ 平成24年12月21日開催の第3回FD/SD研修会において、全学から集まった約30名の大学院生を対象とするグループディスカッションの実演を行い、研究科間の交流を図った。</li> </ul> <p>2. 学生支援の充実に関する取組</p> <p>(1) 履修指導・学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語学習プログラムの関連事業として、英語学習アドバイザー制度を導入し、英語学習に関する学習相談、カウンセリング、特別講座を開催した。</li> <li>・ 入学前教育として、学科の要請を受けて推薦合格者を対象にeラーニングを活用した遠隔教育を試験的に実施し、学生の英語学力の向上に貢献した。</li> <li>・ 農学部の2学科と協力して、学習管理システム(WebClass)上で機能するeポートフォリオの開発を継続して行い、学生の履修状況や教育目標達成度を測ることのできる機能を開発した。</li> <li>・ 発達障害を持つ学生に対応するために、安全衛生保健センターと本センターが協力して、学生支援フォーラムを3回開催し、障がい学生に対するより良い支援の在り方について教職員の意識向上に貢献した。</li> </ul> <p>(2) 学生相談・就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の学修・生活相談の組織体制の整備及び、学生なんでも相談室の周知を図った。</li> <li>・ 安全衛生保健センターとの学生支援カンファレンス（月1回）を実施し、情報共有の体制強化を進めた。</li> <li>・ 新入生及びその保護者向けのリーフレット（「学生相談のご案内」）の作成・配付を行った。</li> <li>・ 平成24年度より、「障がい学生修学支援連絡会」を組織し、各部局間での情報共有や連携の推進を図った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県中央発達障害者支援センターと連携し、訪問相談の窓口を試行的に開設した。</li> <li>・全1年生を対象に、大学入門セミナーを活用して、「進路意識調査」を実施した。その結果は、各学部へもフィードバックし、医学部等では教授会でも活用されている。</li> <li>・キャリア支援課と連携し、就職ガイダンスや就職相談を実施した。</li> <li>・学生委員会、キャリア支援専門委員会と連携し、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」（22企画）の運営を支援した。</li> </ul>
<b>Ⅱ 研究活動</b>	<p>1. 研究活動の推進に関する取組</p> <p>(1) 学長裁量経費等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長裁量による戦略重点経費として「英語運用能力向上を目指す集中講座」が採択され、工学部と農学部において専門教育に資する英語講座を実施した。</li> <li>・戦略重点経費として「英語運用能力を検証する学習到達度調査」が採択され、主として3年次生を対象とするTOEIC試験を実施し、1・2年次の英語学習の到達度を継続して測定し調査を行った。</li> </ul> <p>(2) 科学研究費助成事業等の外部資金の受入状況や取組</p> <p>1) 科学研究費助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「産学連携の教育効果に関するインディケータの構築」挑戦的萌芽研究、研究期間：平成22年度～24年度、研究代表者：藤埴智一</li> <li>・「国際的な環境変化に伴う我が国の高等教育システムの機能別分化と規模適正化」基盤研究(B)、研究期間：平成23年度～26年度、研究代表者：藤埴智一</li> <li>・「大学の環境適応：組織構造・規模の成立と変容に関する分析と適正性の推定」基盤研究(C)、研究期間：平成24年度～26年度、研究代表者：村澤昌崇（広島大学）、研究分担者：藤埴智一</li> </ul> <p>2. 特筆すべき研究成果、学会賞等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習プログラム実施委員会において、本センターが中心となり、平成22年度から導入された学士一貫の英語学習プログラムの学習効果を継続して測定する調査を行っている。</li> <li>・新入生を対象とする学習調査（学習カルテⅠ）及び卒業年次生を対象とする学習調査（学習カルテⅡ）を実施した。</li> <li>・学習カルテⅠ、Ⅱの調査結果を全学及び学部FD研修会で報告し、教育改善の提言を行うとともに、各学部教員と学生指導に関する議論を行った。</li> </ul>
<b>Ⅲ 社会貢献</b>	<p>1. 教育・研究成果等の社会への還元</p> <p>(1) 公開講座、シンポジウム等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として公募による卒業研究事業を企画し、成果発表会を開催した。</li> <li>・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として主に県内の高校一年生を対象とする授業体験会を企画し、実施した。</li> <li>・その他、センター教員が高等教育コンソーシアム宮崎の運営委員会委員、企画会議委員、及び諸事業の実施委員会委員として、コーディネート科目事業、単位互換事業、インターンシップ事業、就職支援事業、FD事業を企画・実施した。</li> </ul> <p>(2) メディアへの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」の活動の一部がテレビのニュースやラジオなど、メディアに取り上げられた。</li> </ul>

1. 管理運営での取組

(1) 各種委員会の取組状況や見直し

- ・大学教育委員会の下部組織のFD専門委員会にセンターが中心に関わり、全学のFD・SD研修会を次の通り5回開催した。平成24年度から新たに「グローバル人材育成FD/SD研修会」を開催した。

第1回宮崎大学FD/SD研修会の開催(7月2日開催、参加者81名)

講演:「ティーチング・ポートフォリオによる教育開発:そのコンセプトと実践」

講師:栗田佳代子先生(大学評価・学位授与機構准教授)

ワークショップ:ティーチング・ポートフォリオの作成体験

第2回宮崎大学FD/SD研修会の開催(9月10日開催、参加者101名)

講演:「全国調査から読み解く学びの構造:『大学生基礎力調査(2012)』を中心に」

講師:山下仁司(ベネッセ教育研究開発センター主席研究員)

報告:「機関調査から読み解く学びの構造:宮崎大学『学習カルテI・II』の結果より」

報告者:藤埴智一(宮崎大学教育・学生支援センター准教授)

第3回宮崎大学FD/SD研修会の開催

(12月21日開催:参加者72名、学生参加者34名を含む)

テーマ:大学院におけるグループディスカッションをファシリテートする

実演:「グループディスカッションの授業への導入」

講演:「グループディスカッションを成功させるファシリテーションとは」

講師:石川世太(プロファシリテーター)

第1回宮崎大学グローバル人材育成FD/SD研修会の開催(11月21日開催)

講演:「大学におけるグローバル人材育成とその取り組み事例」

講師:鬼塚晃(アルク教育社専務執行役員)

報告:「英語で授業をするために」

講師:吉中昌國(アルク教育社グローバル人材開発コンサルタント)

第2回宮崎大学グローバル人材育成FD/SD研修会の開催(11月30日開催:参加者98名)

講演:「Kyoya's Glocalization」

講師:渡邊眞一郎(京屋酒造代表取締役)

報告1:農学部:International GAPの取り組みについて

報告2:国際連携センター:IRISHにおける砒素対策プロジェクト

- ・平成26年度実施に向けた学士課程教育の再編の取組として、大学教育委員会の下に学士課程教育検討専門委員会が設置され、センター部門長、センター教員が中心的に検討に参加した。
- ・専門委員会(FD専門委員会、キャリア支援専門委員会)の委員長をセンター部門長が担当することで、学内施策の企画組織としての機能を強化した。
- ・安全衛生保健センターと連携し、学生なんでも相談室等における学生支援体制の整備・充実を図った。
- ・共通教育部、工学部、農学部においてFD研修会を共同開催し、学習カルテI・IIの学部別分析結果について報告し、教育改善及び調査の改善に向けて参加者と意見交換をした。

(2) 技術職員の能力開発(職員研修)

- ・英語学習プログラムを推進するため、技術職員を配置し、システム管理、学習履歴の収集・解析及び授業を効率的に運営するためのツール開発を行うなど能力開発に努めた。

<p><b>VI 施設・設備</b></p>	<p>1. 施設設備の整備・活用等に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学会館3階会議室に最新型のインタラクティブ・プロジェクター（電子黒板）を導入し、学士課程教育検討専門委員会における検討をはじめ、会議の打合せ等において活用した。</li> </ul>
<p><b>VII 課題・改善点等</b></p>	<p>1. 平成23年度の課題に対する改善点や今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学教育と学生支援という2つのミッションを効率的に企画・運営する方策を検討するという課題に対して、各部局と連携を密にして、FD活動の事業を実施した。</li> <li>・ 障がいを持った学生の受入及び学生支援体制の充実に向けて、学生支援フォーラムの開催（年3回）、「障がい学生修学支援連絡会」の開催や、学生支援カンファレンスへ各部局からも参加を得るなどの改善を行った。</li> </ul> <p>2. 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達障害に限らず、さまざまな特徴をもった学生への支援を充実させるために、部局間での情報共有と連携を進めるとともに、学生支援フォーラム等で教職員の認識を高める機会をより充実させる。</li> </ul>
<p><b>VIII 今年度の自己評価</b></p>	<p>1. 活動状況（3つのうちいずれかにチェックを入れてください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 良好である。</li> <li><input type="checkbox"/> おおむね良好である。</li> <li><input type="checkbox"/> 不十分である。</li> </ul> <p>2. 判断理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学士課程教育検討専門委員会における学士課程教育の検討に積極的に取り組み、現行教育課程の現状調査等（①カリキュラムマトリックスの作成、②カリキュラムの体系性・順次性の点検、③カリキュラムポリシーの策定（ディプロマポリシーの点検を含む）、④カリキュラムフローチャートの作成）を完了した。</li> <li>・ 障がいを持つ学生への支援等において、部局間の情報共有と連携を図ることができた。</li> </ul>